

## 有限会社 雀屋

1869年(明治2年)創業

お酒屋さんに一歩足を踏み入れると、香ばしいコーヒーの香り。隠れ家的なカフェスペースのある不思議で魅力的な老舗「雀屋」を訪ねました。

## 「雀屋」というブランドに 愛着を感じてもらったために

時は江戸時代。日光街道杉並木の入口に一軒のお店があったそう。当時、日光街道沿いには民家もまばらで、宇都宮を通りすぎてから日光までの道のりには、「雀屋」以外にお店はあまり点在しておらず、街道を行き交う人々にとっては、オアシス的な存在であり、村の公民館の役割を担う宴会場としても近隣の人々や旅人に重宝され、愛され：そんな創業当時の話が、「雀屋」には伝わっているそうです。

酒屋と呼べるような業態になつたのは「宇都宮商工会議所百年史

(平成6年3月発行)」によると1869(明治2)年ということ。で、便宜上、この年を創業年とされているということです。ちなみに「雀屋」という屋号は、創業当時からこの言い伝えはなく不明とのこと。雀のお宿説が有力だとか。現在は公共の名前であればということ、店舗近くのバス停は「上戸祭小入口」に変わってしまいましたが、15年ぐらい前までは、「雀屋前」というバス停だったそうです。

現在のお店にリニューアルしたのは、国道119号線と宇都宮環状道路の交差点が、宮環状戸祭ミレニアムアンダーとして整備されることになった時。交差点整備に伴う店舗移転が契機となつて、それまで温めていたプランを実行に移すことができたそうです。

開店にあたり現店主の大塚哲夫さん(6代目)が意識したのは、「雀屋」というブランドイメージ作りだそうです。まずは店内のイメージ。木の温もりと石(コ

ンクリート)の重厚感を表現。商品イメージは他店にない酒・タバコの構成を意識し、お店のイメージを損なわない程度の雑貨(酒・タバコグッズ、アンティーク小物、日用品など)を並べ、店内を見る楽しみを演出。ラッピングにも力を注ぎ、贈答品としての「雀屋ブランド」構築に腐心したとのこと。一度来店されたお客様がまた来たくなくなるような、人に教えたくなるような、そんなお店づくり。その信用と信頼がブランドイメージ作りには重要で」と話してくれました。

昔の酒屋さんと言えば「もつきり」に「豆腐」「おでん」：今はなき良き思い出ですが、現在「雀屋」では、おいしいコーヒーとケーキを出しています。これはその昔、峠の茶屋的存在だった頃の「雀屋」を思いおこさせます。変化している一方で原点は変わらずといったところでしょうか。

もともと哲夫さんは、「デザインに関する仕事をしてきたこともあり、物づくりが趣味であったことも、今のお店にうまく活

かされているようです。

日々の変化を苦勞とせず、クリエイティブに前向きな発想で未来へと突き進む姿が、歴史を守るのではなく、歴史をつくらうとしているのだと実感させます。変化を楽しみつつも変わらずに存在することこそが、歴史をつくる上で重要なことなのかもしれません。



コーヒー一杯で半日過ごす人もいるほど、居心地の良いカフェスペース



先々代から伝わるかき氷機「初雪」。猛暑続きの今夏は連日大活躍



6代目店主の大塚哲夫氏。地階のワインセラーにある雀屋ブランドワインの試飲コーナーにて

### 有限会社 雀屋

宇都宮市上戸祭 2-3-9  
☎028-624-7988

〈営業時間〉  
12:00~21:00  
木曜日定休 /  
第2・3水曜日休

※このコーナーは隔月  
で掲載します。